

愛知県 精神医療センター ニュース



365日24時間対応する スーパー救急

CONTENTS

[シリーズ] 教えて先生『認知症の温故知新』

認定看護師+CERTIFIED NURSE ……認定看護師の活動

INFORMATION

愛知県精神医療センター広報誌

2018.03
Vol.02

シリーズ

教えて先生!?



2

認知症の温故知新

40年以上前、当時から認知症を病気とみなすか老化の一部とみなすかの議論があった。

老化ならばその治療を目指すことには多大な困難が予想されており、この問題に手をつけることは到達不可能な課題に入り込むことになると危惧する意見が囁かれてはいた。しかしアルツハイマー病は疾患としてすでに認知されており、取り組むべき病気としてそのまま研究課題として走りだしていた。

あれから月日は流れ、すぐに解決するだろうとみられていた治療への手がかりは五里霧中の中になり手さぐりでの前進は続いているものの、先の見通せないことについては変わりない。もしかしたら、当初抱いていた危惧（老化の制御が可能かという大問題）が前面に躍り出つつあるのかもしれない。米国で「アンチエイジング」の言葉を商業分野で今後使わない方針を打ち出したのもその表れといえる。

そうした中、学会を先導してきた方々の発言の中で最近しきりにアルツハイマー型老年認知症を正常老化として見直すべきとの所見を開陳する人が何人も現われている。その影響は疾患分類に及びつつあり、病院によっては病名統計欄で老年認知症がある年度を境として正常老化とそれ以外とに分けられ、以前と整合性がとれない問題視する意見もある。

しかし正常老化とは何かも明確になっていない。1960年代の教科書では65歳以上はみな同様とだけありおおらかな記述でおしまいとなっている。そうし



今号の
先生

副院長
岩田 拡 医師

【ずっと頭に残っている作家】 安井章太郎

【気になる作品】 夏目漱石「ぼっちゃん」

【もう一度見たい映像】 NHK大河ドラマ「武田信玄」の中の一場面

た中、90年代末ある試みがなされた。

剖検によって、提供いただいた多くの脳について、形、重さ、顕微鏡での検討を多数の専門家を集めてなされた。あらかじめ診断名は伏せられていた。目的は正常な老化と病的なそれとの境界について意見が一致するか否かである。結果は、その二者の間の決定的な違いはないことが明らかとなった。正常から病的の違いは連続的であって、明確な段差はない。脳の老化は正常から病的までスペクトラムな連続変化であり、こうしたことは、発達障害、統合失調症、躁うつ病に導入された考えと同じことが言えそうである。

老化に対する根本治療法はないかもしれない。医療に頼れそうもないでのいかにこの現実を受け入れるか、向き合うかが各自問われている。神経病理を歩んできた先達が自身の身内の晩年の生き方について正常老化の視点から学会などで語るのは、医療の枠の外を目指しなさいという導きであるかもしれない。

INFORMATION

平成30年3月11日(日)
公開講座を開催しました。

当院 新井康祥 医長が、「子どものこころを知る」というテーマで実施しました。講師の臨床経験を元に、児童思春期の症例と抱える問題を1つ1つ紐解きながらの講演で、子どものこころを知るヒントがたくさん詰まった内容でした。

平成30年度も公開講座を予定しています。楽しみにしていてください。



平成30年2月1日に
東棟がオープンしました。

1階が児童青年期病棟・3階には成年発達障害専用病床も設置しました。

また、平成30年4月1日には北棟児童青年期デイケアがオープンします。



365日24時間対応する スーパー救急

励みと働き甲斐

西2病棟 師長 大田 豊子

当院に精神科救急病棟が開設されて1年が過ぎました。精神科救急病棟は365日24時間救急患者の患者受け入れを行い、短期間で集中的な治療を行つて3ヶ月以内の退院を目指す病棟です。そのため、一般的な精神科病棟より、厳しい施設基準と人員配置が定められています。当病棟ではより良好な環境で、高度な医療やケアを提供する事ができるように、さらに早期退院を実現するために、一人一人の患者さんへ個別の看護ができるよう業務変更をすすめています。また、病棟専従の医師や精神保健福祉士、その他、薬剤師、作業療法士、管理栄養士など多職種で活発なカンファレンスを行い、実務を協働することで、医療チームとしての大きな力を發揮することができます。また、病院外へ個別の看護ができます。

精神的な病のため、入院されたとしても早期に退院することで、経済的、社会的な問題が大きくならずにすみ、生活能力も低下することなく元の生活に戻つていけるというものはこれまで長期療養を余

精神科スーパー救急とは

精神科急性期の患者様に対して、365日24時間対応で治療を行うのが精神科スーパー救急病棟（精神科救急入院病棟）です。厚生労働省が掲げる厳しい基準をクリアした病院でなければ行うことができず、精神科に関して専門的な知識と技術を持つ精神保健指定医や看護師の数が定められており、質の高い精神科医療を提供し、入院される患者様の早期回復、早期退院を目指します。

医師・看護師の他に薬剤師・臨床心理士・精神保健福祉士・作業療法士など多職種がチームを組んで短期間にハード・ソフトともに集中して治療を行います。愛知県精神医療センターでは2016年から開始しております。地域の皆様に安心して質の高い精神科医療を提供させていただくために日々取り組んでいます。

儀なくされてきた精神科の患者さんのQOLを大きく向上させることができます。また、現場のスタッフにとっても、多職種チームで患者一人一人に丁寧に関わることで、激しい混乱状態で救急搬送された患者さんが入院後、短期間で落ち着かれ、回復していく過程を目の当たりにすることが、何よりも励みになり、働き甲斐を感じられます。それが、高いモチベーションを持って仕事を続けていく原動力となり、忙しいながらも笑顔が絶えない職場になつてていると思います。

整った環境と課題

西2病棟副師長 川島明美

スーパー救急病棟運営の要はスタッフのモチベーション向上と日々の指導・教育です。西2病棟は経験豊かなスタッフに恵まれ、他職種とのチーム医療が最大限に発揮できる環境になります。今後の課題として、退院後の病状安定を図るための支援を家族や地域とともに行つていただきたいと思います。

認定看護師 + CERTIFIED NURSE



病棟診療部長 高木宏 医師



作業療法士 浦山 英明

4人の病棟医により、症状の速やかな改善を目指すのみでなく、今後の再発再入院をいかに少なくするかを考えた薬物療法を行っています。また患者さんが自分の病気に自分自身で立ち向かえるよう薬や病気に関する心理教育も多職種で行っています。

作業療法では、創作、軽スポーツ、音楽療法といった集団療法だけでなく、個別での対応もおこなつており一人一人の目標に合わせて取り組んでいます。今後も患者様の多種多様なニーズに対応できるよう尽力していきます。

認定看護師の活動

南病棟 師長 石川 敦成



認定看護師紹介シリーズ第2弾として、司法精神看護領域の精神科認定看護師でもある私が活動のご紹介をします。愛知県精神医療センターは、今年度で全面改築を終え、電子カルテを導入するという大きな変革期にあります。県民の皆様のニーズに応えるべく、機能特化した病院運営が進められています。

認定看護師の活動

認定看護